

# 佐紀(さき)古墳群を歩く ～巨大前方後円墳を巡る

《コース》平城駅⇒五社神(ごさし)古墳(神功(じんぐう)皇后陵)⇒佐紀石塚山古墳(成務(せいむ)天皇陵)  
 ・佐紀御陵山(みささぎやま)古墳(日葉酢媛命(ひはすひめのみこと)陵)・佐紀高塚古墳(称徳(しょうとく)天皇陵)  
 ⇒平城宮跡(昼食)・遺構展示館 ⇒ヒシャゲ古墳(磐之媛(いわのひめ)命(のみこと)陵)⇒コナベ古墳 ⇒新大宮駅  
 担当： 29期 北川様、宮田様

奈良市北西部の佐紀丘陵に位置する、4世紀後半から5世紀にかけてのヤマト王権の王墓群(佐紀盾列古墳群)である。全長200mを超える巨大前方後円墳(五社神古墳、コナベ古墳、ウワナベ古墳等)が東西に並び、宮内庁の陵墓に指定されているものが多い。



近鉄平城駅集合



サークル長挨拶



コース説明



スタート



八幡宮



佐紀石塚山古墳へ向かう



五社神古墳(神功皇后陵)



神功皇后陵説明



佐紀石塚山古墳(成務天皇陵)前で説明



左右に佐紀石塚山古墳(成務天皇陵)と佐紀御陵山古墳(日葉酢媛命陵)の道



佐紀石塚山古墳(成務天皇陵)



白鷺(しらさぎ)



サークル長の説明



成務(せいむ)天皇陵



佐紀陵山古墳(狭木之寺間陵)



休憩



山上八幡神社



佐紀神社方面へ



佐紀神社方面へ



梅



御前池(おまえいけ)



河鶺(かわう)



鴨



佐紀神社



道中の案内板



菜の花



平城天皇楊梅陵



平城天皇楊梅陵 (市庭古墳)



市庭古墳で説明



平城宮跡(昼食)



平城宮大極殿



平城宮跡



造酒司の井戸



造酒司の井戸



ハジカミ池三叉路の道標



佐紀東町の石仏



集合



アオサギ



カワウ



唐ネズミモチ



ヒシアゲ古墳へ



ヒシアゲ古墳



ヒシアゲ古墳



ヒシアゲ古墳



ヒシアゲ古墳(磐之媛命陵)



小奈辺古墳(コナベ古墳)



小奈辺古墳(コナベ古墳)



小奈辺古墳(コナベ古墳)



宇和奈辺古墳(ウワナベ古墳)



航空自衛隊幹部候補生学校



宇和奈辺古墳(ウワナベ古墳)



ウワナベ古墳に鴨のツガイ



新大宮駅へ向う



新大宮駅へ向う途中に看板(うんてい)

芸亭は、日本で最初の公開図書館とされている施設。

奈良時代末期に有力貴族であった文人の石上宅嗣によって平城京に設置された。芸亭院ともいう。仏典と儒書が所蔵され、好学の徒が自由に閲覧することができた。

9世紀初頭の天長年間まで存続していたとされる。

お疲れ様でした。本日の担当の方有難う御座いました。 以下資料

## 資料

2026年2月13日(金) 野外活動サークル定例会 配付資料

「佐紀古墳群を歩く」  
～巨大前方後円墳を辿る～

(コース) ※陵墓の被葬者は宮内庁による。

近鉄平城駅<sup>㉒</sup> ～五社神古墳(神功皇后陵)<sup>ごさしじんぐう</sup>～佐紀石塚山古墳(成務天皇陵)<sup>いしつかやませいむ</sup>・佐紀御陵山古墳(日葉酢媛命陵)<sup>みささぎやまひはすひめ</sup>・佐紀高塚古墳(称徳天皇陵)<sup>しょうとく</sup>～市庭古墳(平城天皇陵)<sup>いちにわへいぜい</sup>～平城宮跡<sup>㉓</sup>(昼食)・遺構展示館～ヒシャゲ古墳(磐之媛命陵)<sup>いわのひめ</sup>～コナベ古墳(陵墓参考地)～ウワナベ古墳(陵墓参考地)～近鉄新大宮駅<sup>㉔</sup>

(注) 陵墓参考地とは

被葬者が天皇、皇族の可能性はあるが、被葬者を特定する資料が存在しない墳墓。宮内庁が管理する。

(注) 被葬者については、江戸時代に記録や絵図をもとに定めたものが、その後

に別の文書の検証により変わるなどしており、現在は明治になってから定め

たものを宮内庁の見解としている場合が多い。現在は陵墓とされた古墳は研究者による専門的な調査ができないため、被葬者はかなり疑わしい。

## 【佐紀古墳群について】

「佐紀盾列古墳群」とも言われる。墳長200m以上の巨大前方後円墳8基を含む60基以上の古墳から成る。昨年6月に当サークルで訪れた宝来山古墳(垂仁天皇陵)も、少し離れているが佐紀古墳群に属する。

平城京築造時に削平されたものが多くあり、例えば平城宮の内裏、第二次大極殿のある位置には、今では跡形もないが、神明野古墳という大きな前方後円墳があった。また最近

の調査で、その少し東にも大きな前方後円墳（仮称：佐紀池ノ尻古墳）があったことが判明した。

時代的には、古墳時代の前期末から中期前半にかけて造営されたものがほとんどで、天理市の「大和・柳本古墳群」、広陵町、河合町、大和高田市の「馬見古墳群」、さらに堺市、藤井寺市、羽曳野市の「百舌鳥・古市古墳群」を造営した勢力との関係解明が、研究の課題となっている

## 【コース上のポイント解説】（行程順）

### ① 五社神古墳（神功皇后陵）

【墳長（端から端までの長さ）267m、後円部直径190m、前方部幅150m】（これらの数値は、宮内庁報告の復元数値または図上計測による、以下同じ）

幕末までは称徳天皇陵とみなされていた。左手に見える石灯籠は、江戸時代まで神功皇后陵とされていた佐紀御陵山古墳から移したものである。（③佐紀御陵山古墳の項参照）

従来は「佐紀古墳群最古の大型前方後円墳」というのが通説であったが、2003年に宮内庁による調査（墳丘裾護岸工事前の事前調査）が行われ、造り出しがあった可能性や祭祀に使われる土器の採集など、中期古墳の特徴があることが分かってきた。

2008年、陵墓公開を求める考古学・歴史学系協会に初めて立ち入り観察を許可した古墳となった。

### ② 佐紀石塚山古墳（成務天皇陵）

【墳長218m、後円部直径132m、前方部幅111m】

先にできていた佐紀御陵山古墳の影響で、東側の周濠がかなり狭い。狭くなっている周濠の向いに3基の方墳があり、陪塚の初期のものである。

3回の盗掘事件が記録に残っていて、石棺の大きさや形状と、副葬品として勾玉、管玉がそれぞれ数十個あったことがわかっている。1844年、1848年の2回に渡り周辺の古墳も一緒に盗掘した一味の主犯格は、塩漬けにされた死体を市中引き回しされた上、磔に処された。

③ 佐紀御陵山古墳（<sup>みささきやま</sup>白葉酢媛命陵）

【墳長 207 m、後円部直径 131 m、前方部幅 87 m】

幕末までは神功皇后陵とみなされていたが、西大寺関連絵図の考証の結果、1875年に（垂仁天皇后）日葉酢媛命の陵墓と治定された。長い間、神功皇后陵として地元から厚く信仰され、有力者が献納した石灯籠が、五社神古墳に移されて8基現存している。

佐紀古墳群最古の大型前方後円墳である。1916年に盗掘事件が起き、そのおかげで竪穴式石槨の構造がわかり、副葬品リストも充実している。

## ④ 佐紀高塚古墳（称徳天皇陵）

【墳長 127 m、後円部直径 84 m、前方部幅 70 m】

周辺の巨大前方後円墳は前を南に向けるが、当古墳だけ前を西に向ける、墳長は127 mで、隣接する前方後円墳に比べるとかなり小さい。

称徳天皇は、奈良時代後半の770年に没し、当古墳ではなく西大寺の西方に埋葬されたことが確実視されている。称徳天皇は重祚する前の「孝謙天皇」であったときに西大寺の建立を<sup>はつらん</sup>発願しており、西大寺が、ゆかりのある当古墳を称徳天皇陵とすることで寺領の確保、拡張を図る、という経営戦略により創作した記録が<sup>じよふろ</sup>治定の根拠とされたと思われる。

⑤ <sup>いちにわ</sup>市庭古墳（<sup>へいぜい</sup>平城天皇陵）

かつては国内最大級の円墳とみられていたが、1962~63年に奈文研が行った平城宮跡の調査により、前方部が削平された前方後円墳であることが判明した。周濠は一気に埋めたと見られ、前方部のあった位置には内裏関連施設が築かれた。

ちなみに平城天皇が没したのは、平安時代である。

続日本紀には、709年の記事に<sup>げんめい</sup>元明天皇が「古墳を破壊したら祭祀を行い死者の魂を慰めること」と勅令を出したことや、780年に<sup>こうにん</sup>光仁天皇が「寺を作るときに古墳を壊してその石材を用いていると聞くが、死者の魂を驚かせ子孫を憂えさせるから今後は禁止せよ」と命じたことが書かれている。

⑥ ヒシャゲ古墳（<sup>いわのひめ</sup>磐之媛命陵）

【墳長 219 m、後円部直径 125 m、前方部幅 145 m】

江戸時代は平城天皇陵とされていたが、幕末から明治にかけて異論が出され、1875年に（仁徳天皇后）磐之媛命の陵墓と治定された。埴輪列があったことは江戸時代の

記録にもあるが、1993年の榎考研の調査により、後円部東側の内堤で円筒埴輪列が見つかった。隣接する公園に複製埴輪が置かれている。

### ⑦ コナベ古墳

【墳長208m、後円部直径131m、前方部幅129m】

江戸時代は元正天皇陵とされていた。法華寺所有地であったが、現在は陵墓参考地として宮内庁が管理している。陪塚は北側から西側の外堤に接して10基あることが分かっており、百舌鳥古墳群の大山古墳（仁徳天皇陵）に準ずる個数である。

### ⑧ ウワナベ古墳

【墳長255m、後円部直径130m、前方部幅130m】

江戸時代は元明天皇陵とされていた。コナベ古墳とともに、奈良県が大阪府の一部であった時期に上地され、その後は陵墓参考地として宮内庁が管理している。

現在は、見ての通り東側外堤（もともと陵墓参考地の外、民間のもの）が国道24号線バイパスとなっている。当初（1964年）の計画では、バイパスはヒシャゲ古墳の西側を通すことになっていたが、平城宮跡を分断することから有識者が反対し、国会でも問題とされた。結局1968年に建設大臣がルート変更の表明をするに至った。

陪塚は3基あったが、変形しながら残る1基を除いて、戦中戦後の軍用地供出によって消滅している。

#### 被葬地とされた古墳のうつりかわり

神功皇后(269年没)	佐紀御陵山古墳 → 五社神古墳
称徳天皇(770年没)	五社神古墳 → 佐紀高塚古墳
平城天皇(824年没)	ヒシャゲ古墳 → 市庭古墳
元正天皇(748年没)	コナベ古墳 → 奈保山西陵
元明天皇(721年没)	ウワナベ古墳 → 奈保山西陵 → 奈保山東陵

(注) 奈保山東陵、奈保山西陵はウワナベ古墳より東にあり、佐紀古墳群には属さない。